

# 全国学力・学習状況調査について

## 1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

## 3. 調査の対象

泉佐野市立日根野中学校 第3学年，全生徒  
実施生徒数（149人）

## 4. 調査の内容

- (1) 学力に関する調査
    - ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語及び数学。
    - イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。
    - ウ 出題形式については，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。
  - (2) 学習状況に関する調査  
調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。
  - (3) 学校の取組みに関する調査  
調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。
- ※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

### 1. 全体の傾向

・言語についての知識は平均を上回っていることから身についていると考えられる。しかし、話す・聞く能力の問題、書く能力の問題は平均を下回っていることから、知識を活用して言葉で表現することは苦手であると言った傾向がみられる。

平均正答率（本校 62／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 64.6）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<p>【国語への関心・意欲・態度】【話す・聞く能力】 ○話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える（40.1/57.1） 1三 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く</p> <p>【書く能力】 ○書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く（17.7/24.8）</p> <p>2一 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する</p>	<p>【読む能力】 ○文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ（9.5/20.5）</p> <p>3四 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 ○相手や場に応じて敬語を適切に使う（48.3/40.3） 4三 「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する</p>	

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	66	61	◇	5
国語の授業内容はよく分かりますか	91	80	◇	11
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	87	82	◇	5

○「国語の授業内容はよくわかる」という質問は全国平均を大きく上回っているが、学力状況調査の結果より、その知識を活用することが苦手であることがわかる。

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

### 1. 全体の傾向

- 平均正答率は全国と比べてあまり変わらない、数と式の分野においては10.7ポイントと大きく上回っていることから、数学的な技能を問うような問いに関しては得意な傾向にあることが見受けられる、一方で、図形の分野においては4問中3問が5ポイント以上下回っており、他に比べ、苦手な傾向にあることが見受けられる

平均正答率（本校 57／泉佐野市 52／大阪府 56／全国 57.2）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p><b>【数と式】</b> 整式の加法と減法の計算ができる</p> <p>① <math>(5x + 6y) - (3x - 2y)</math> を計算する (87.8/77.1)</p> <p><b>【図形】</b> 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している</p> <p>③ 中心角 <math>60^\circ</math> の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ (57.8/68.1)</p> <p><b>【資料の活用】</b> 与えられたデータから中央値を求めることができる</p> <p>⑤ 反復横とびの記録の中央値を求める (89.8/84.5)</p>	<p><b>【図形】</b> 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる</p> <p>⑨ (1) 四角形 ABCE が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて表す (36.7/44.3)</p> <p><b>【図形】</b> ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる</p> <p>⑨ (3) <math>\angle ARG</math> や <math>\angle ASG</math> の大きさについていつでもいえることを書く (23.1/28.8)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	67	87	○	20

○授業はプリントで実施しており、解き方や考え方が分かるように板書を写す様子はみられるので、ノートを使っていないことからこのような結果になったのではないかと考えられる

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身の様子】	<p>難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している生徒の割合が全国平均を上回っている</p> <p>今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合が全国平均を下回っている</p>	<p>難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか &lt; 73.2 / 65.9 &gt;</p> <p>今住んでいる地域の行事に参加していますか &lt; 37.5 / 43.7 &gt;</p>
【学校での学習の様子】	<p>1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると考えている生徒の割合が全国平均を上回っている</p> <p>道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる生徒の割合が全国平均を下回っている</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じている生徒の割合が全国平均を下回っている</p>	<p>1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか &lt; 79.9 / 74.8 &gt;</p> <p>道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか &lt; 77.9 / 86.2 &gt;</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか &lt; 55.7 / 62.8 &gt;</p>

## 本校の取組

### ◎これまでの取組

- ・ 学年ごとに研究授業を開き、今年度の学力向上の研究テーマである「授業＋１～授業にプチしかけを～」をもとに主体的、対話的で深い学びの観点から協議をする
- ・ 授業規律マニュアルを作成して教室の環境作りを統一する、また、小中連携も視野に置いて可能な範囲で授業規律を統一させる
- ・ 支援教育の観点から教室の環境もユニバーサルデザインを取り入れていく
- ・ 隠れた教育を教職員に意識づけて教室の環境をこまめにチェックする
- ・ 「めあて、ふりかえり」を全授業で完全実施するために各教職員にめあて、ふりかえりカードを配布する
- ・ 学校だよりや学年通信など授業改善の情報を発信する
- ・ 放課後に「まなびんぐ学習」を行い学力の向上に取り組む
- ・ 家庭学習を強化するために各教科で工夫した対策を考える
- ・ 授業観察週間を設定して教職員間でそれぞれの授業の共有をする
- ・ 長期休業中に補充学習を行い基礎学力の向上を図る
- ・ 職場体験学習、進路学習を通じたキャリア教育の充実を図り、夢や目標について考える機会を設ける
- ・ 授業内容と生徒の生活との関係を理解できるような授業展開を考えて実施する
- ・ 授業内容と関連付けて、外国の様子、特徴を知らせるなど、生徒が外国の興味に持てるような授業展開を準備する
- ・ 地域学習のフィールドワークでは、実際に身の周りの地域の人の話を聞いたり、現地を歩いてみたりして、生徒自身が様々な事柄を発見できるような取り組みを行う
- ・ 生徒自身が ICT 機器を用いる機会を特定の教科だけでなく様々な授業、活動で設ける

### ◎これからの取組

- ・ 今年度の学力向上の研究テーマである「授業＋１～授業にプチしかけを～」を、主体的で対話的な深い学びの観点から協議し、来年度さらに深化させた研究テーマを策定する

#### 学びの環境づくり

- ・ 授業規律マニュアルを周知し、生徒が落ち着いて授業を受けられる環境づくりに努める
- ・ 教室や授業のユニバーサルデザインに基づき、「わかる授業づくり」を目指す
- ・ 放課後の「まなびんぐ学習」、長期休業中の「補充学習」の実施や日々の授業、家庭学習の工夫を通して、個別最適化された教育の実現を目指す

#### 授業力の向上

- ・ 授業では「めあて、ふりかえり」を提示するなど、泉佐野スタンダードを活用する
- ・ より気軽に授業を参観できる環境にする「オープンドア」を実施する
- ・ 研究授業・研究討議で生徒の実態や成果・課題を共有し、PDCAサイクルによる授業改善に努める

#### 地域との協働を通して、社会に開かれた教育の実現

- ・ 職場体験学習、進路学習を通じたキャリア教育の充実を図り、夢や目標について考える機会を設ける
- ・ 各教科において、国際教育の視点を盛り込みつつ、教科における学習と総合的な学習の時間が関連するよう工夫する
- ・ 地域学習のフィールドワークでは、地域の歴史を知り、地域を支える人々との出会いを通して、魅力を再発見し、よりよい地域づくりに貢献できるような活動を実施する

#### ICTを活用した情報活用能力の育成

- ・ 学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて「情報の収集・整理・分析・表現・発信」等を行うことができる力の育成を目指す
- ・ 授業で積極的に「一人一台端末」を活用しながら、生徒がデジタルのよき使い手となる情報モラル教育をめざす

以上の事柄を実施し、「主体的で対話的な深い学び」を追求することで生徒の学力向上につなげたい